



発行責任者: 歯学部長 宮崎 隆, 編集責任者: 広報委員長 中村 雅典
〒142-8555 東京都品川区旗の台1-5-8 TEL: 03-3784-8000
ホームページ: <http://www.showa-u.ac.jp>



医学・歯学・薬学・保健医療学教育者のためのワークショップが開催されました

歯学教育学部門 片岡 竜太



医学・歯学・薬学・保健医療学教育者のためのワークショップが、8月9日(木)、10日(金)に神奈川県葉山町レクターレ葉山 湘南国際村で開催されました。WSの4学部共通の基調テーマは医学部や薬学部がすでに受審した「分野別認証評価」の中でも、最も重要で準備に時間のかかる「アウトカム基盤型教育カリキュラムの再構築」でした。歯学部のテーマは「コンピテンシーを達成するためのカリキュラム再検討-カリキュラム順序性の検討」で主に3年次までのカリキュラム検討を行いました。4学部混成グループのテーマは「富士吉田教育部教育について」で、各学部の2年次以降のカリキュラムと初年次のカリキュラムとの整合性を検討しました。

ワークショップではディスカッションをはじめの前に、高木副学長による「医学教育分野別認証制度と医学部の受審結果」について講演があり、特に勘案する事項として統合型カリキュラム(水平統合と基礎・臨床の垂直的統合)で適合の評価を得ることが容易ではないことなど説明があり、受審までにかかなり準備を重ねる必要があることがよく理解できました。

今回歯科病院の特定共同指導と日程が重なったために、歯学部の参加者は基礎系教員中心となりました。カリキュラムの効率性の検討では、コンピテンシーを達成するための教育内容と歯学教育モデルコアカリキュラムについての教育が網羅されているかを確認しました。歯周病に関連する講義が集中しているD3・4前期に着目して平成30年度シラバスを用いて、学習内容に対して関連する基礎系授業に未履修が存在しないか、その授業順序も含めた確認作業をしました。その中で、口腔微生物学講座による微生物学・免疫学総論の授業前に、歯周病学講座による歯周病関連細菌などの授業が実施されているなど学生

が学びにくい順序になっている部分があることを確認しました。

そこでより効率的な学習に向け、コンピテンシー獲得のためのマイルストーンとして、Phase1~3を設定しました。Phase1は基礎歯科医学総論レベル、Phase2はCBT・OSCEレベル、Phase3はiOSCAレベルコンピテンシー・国家試験出題基準レベルとしました。Phase1のマイルストーンをD2終了時に設定することによりD3で臨床科目の授業が始まる前に、すべての基礎科目の総論授業は終了します。

その後Phase1について、初年次の授業も含めて具体的にどのようにするか授業時間数や授業時期について検討を行いました。さらに学生が課外活動に取り組みやすくするために、学年を超えて試験や休暇の時期をなるべく揃えることや休暇期間が検討されました。

ここ数年4年次以降のカリキュラムについて検討を行い、参加型臨床実習の内容の充実と期間の延長に取り組んで来ましたが、今年は初年次と2年次のカリキュラムを検討しました。近年学生が学ぶ内容は急激に増え、授業コマ数の増加に伴い学生休暇期間は減り続けています。授業コマ数を減らせるように学生自らが学ぶアクティブラーニングを本格的に導入すべき時期にきているというのが、4学部共通の基本的な認識だと思います。その意味でも能動的な学習方法を2年次までにしっかりと身につけることが重要であると思います。今後教授会を中心に検討を重ね、次年度の1、2年次のカリキュラムを決定していきたいと考えています。

オール昭和の活発な討議の後、小口理事長から昭和大学創設時からの改革の歴史についてお話を拝聴し、カリキュラム改革に取り組む意欲が高まったところで学事部も含め100名以上が参加する合同の懇親会が開催されました。昭和大学の重要な課題とその解決のプロダクトに触れ、それがすべて来年から実施されるこのWSはまさに昭和大学の推進力だと思います。最後に運営を支えていただいた学事部の皆様に感謝します。



昭和大学教育者のためのワークショップ (アドバンスコース)に参加しました

口腔生理学講座 井上 富雄

8月9日、10日にレクtoor葉山 湘南国際村で「医学・歯学・薬学・保健医療学部・富士吉田教育部教育者のためのワークショップ」が開催されました。歯学部のテーマとして「コンピテンシーを達成するためのカリキュラム再検討」が設定され、カリキュラムの順序性・的をのしぼり検討方法の確立を目指し熱心な討議が行われました。



1日目の終わりには、昭和医学専門学校の開学そのものが革新であり、その後もたゆまず革新を続けてきた昭和大学の歴史を小口理事長がご講演くださり、参加者は深い感銘を受けました。さらに、これからは革新を続けていくのだという小口理事長の力強いお言葉に勇気づけられるとともに、日本一の医療系大学を目指す決意を新たにしました。その後、夕食を兼ねた懇親会に続いて二次会、三次会が開催され、学部を越えた交流が夜遅くまで行われました。

2日目は、カリキュラムの順序性をより良くするための具体的な方策が話し合われました。本ワークショップで同時に検討されていた「富士吉田教育部教育について」の検討結果との整合性も図りながら、歯学部1年次から3年次までのカリキュラム改編の方向性をまとめることができました。

昭和大学教育者のためのワークショップ (ビギナーコース)に参加しました

口腔衛生学部門 伊澤 光

8月6日～8日に葉山で行われた「昭和大学教育者のためのワークショップ」に参加してきました。私は平成15年に昭和大学歯学部を卒業して以来、医学部法医学教室大学院、日本大学歯学部法医学講座と在籍し、昨年5月に歯学部口腔衛生学部門に戻ってまいりました。昭和大学の教育が現在、どのような理念の元に行われているのかを早く理解すべく、赴任2年目という早い時期に受講させて頂けたことに感謝しております。



これまで様々なワークショップに参加してきましたが、今回のワークショップは私にとって実りの多いものとなりました。班員にも恵まれ、班ごとの討議や発表会でも活発な意見交換ができたと思っております。また、夜に開催された情報交換会では他学部、他科の先生と出会えたことで、今後の研究活動にも幅を持たせられる良い話し合いができました。その折に「タスクフォース賞」を受賞することができ、最終日には昭和大学宣言をさせて頂くこともできました。

昭和大学教育者のためのワークショップ (ビギナーコース)に参加しました

総合診療科部門 伊佐津 克彦

日本大学歯学部在籍した10年間では経験することができなかった学部を超えた教育というものを理解できたことを光栄に思い、今後の昭和大学教育に活用できるよう邁進していきたいと思っております。

第9回昭和大学教育者のためのワークショップが8月6～8日にレクtoor葉山 湘南国際村で行われました。レクtoor葉山は例年行われていたIPC 生産性国際交流センターの名前が変わったようで、食事の内容も若干変わっていました。参加者は富士吉田教育部1名、医学部14名・歯学部8名・薬学部6名・保健医療学部6名・看護専門学校1名の教職員でした。タスクとしては歯学部からは教育推進室片岡先生、連携歯科丸岡先生、総合診療歯科伊佐津が参加しました。内容については「カリキュラム・プランニング」が中心ですが、台風が接近するなか今年度は例年になく参加者が積極的で、1日目、2日目と日がたつごとに積極的に参加していました。参加者の中で最も好評だったのは昨年度東京医大から来られた泉先生によるアクティブラーニングの講義でした。また、昭和大学宣言は参加者の中で昼夜頑張っていたスペシャルニーズ 口腔医学講座口腔衛生学部門の伊澤先生が最後に行い、終了となりました。



受賞

広報委員長 中村 雅典

International conference on oral immunology and oral microbiology Poster competition 第1位
(開催日:8月14日—15日開催場所:マレーシア)
松井 庄平 (大学院4年 地域連携歯科)

日本歯科放射線学会関東・北日本合同地方会を開催しました

歯科放射線医学部門 荒木 和之

平成30年7月14日に昭和大学旗の台キャンパス4号館500号室にて第227回関東地方会・第38回北日本地方会・第26回合同地方会が開催されました。合同地方会は歯科放射線学会の関東地方会と北日本地方会が合同で年に1回開催されています。

今回は所属する関東および北日本の17の大学に加えて愛知学院大学からも参加していただき、総計80名ほどの歯科放射線を専門とする先生方に集まいただきました。一般演題のセッション1は新潟大学 林



教授に座長をしていただき、診断に苦慮した症例についての4演題の発表がありました。セッション2は放射線の基礎分野に関する発表で、放射線科情報システム(RIS)運用に関する分析やいわき市における家屋の線量低減についての発表がありました。休憩をはさんでセッション3では複数例を集めて病変の特徴を分析した発表があり、コーンビーム CT による臼後孔の発現頻度など最新の知見が報告されました。

講演の最後は、本学口腔解剖学講座の中村雅典教授に「口の系統発生とその変遷—顎関節を例として—」と銘打って特別講演をしていただきました。普段は画像を見ることを専門にしている歯科放射線科医にとって、発生から見た形態の変遷は興味深く、参加した皆さんは大変感銘を受けていました。

最後になりましたが、土曜日の診療時間中にもかかわらずご理解とご協力をいただいた歯科病院の皆様に関心から感謝申し上げます。

歯科医学教育学会で発表しました

歯学部5年 三木 優

私は今回、第37回日本歯科医学教育学会で3大学連携教育についてのポスター発表をさせていただきました。今回発表を志望した動機は学会に興味があり、在学中に一度なんらかの形で関わって見たいと思っていたからです。ポスターを作製するにあたり、まず何を発表したいか、自分たちがどうやって学んできてなにを得られたかに焦点を絞り、学部連携 PBL や VP について伝えたいことをスライドにし、それをポスターに貼り合わせて行きました。今回は臨床実習に対する疑問や経験を学生にアンケートをとり、現在学生がなにを思っているか、なにが個人にとって有意義であったかを調べました。

実際に会場に行き自分が発表をする際、ただ原稿を読むのではなく、自分が何を伝えたいか、どんなところを聞いてほしいかを選択しながら発表させていただきました。発表が始まる前は緊張もありましたが、終わった時には学会で演者として発表できた喜びや満足感が体中を駆け巡りました。また、他大学の個性あふれる発表を見て、自分たちにはなかった良さを感じることができ、今後こういうことをやってみたいなどの興味が湧いてきました。

今回の経験はとても有意義でまた機会があれば是非挑戦したいと思います。



富士吉田キャンパスで入寮体験含むオープンキャンパスが開催されました

入学支援課 佐野 雄一

7月30日(月)から31日(火)にかけて、富士吉田入寮体験が行われました。本学への進学を考えている高校2・3年生49名(うち歯学部志望男子3名、女子4名)は、本学学生(SI)11名とともに白樺寮・すみれ寮への宿泊体験を中心に、食堂での食事体験、富士吉田教育部教育職員による実際の授業で行われる自己紹介ワーク、大学の授業を体験することができる化学実習、校舎施設や馬場・グラウンドなどの運動施設を回る学内見学ツアー、自然教育園での野菜収穫体験、そして、全体を通じて教育職員・本学学生との懇談を行いました。

入寮体験の開始時点では、参加者も緊張のせいか口数も少なく大人しい様子でしたが、様々な体験を通じて、参加者同士、参加者と本学学生・教育職員との距離もぐっと縮まり、コミュニケーションも上手くとれ、2日目の入寮体験終了時には寮の仲間となっていました。

感想では、本学学生や教員のコミュニケーションがたくさん取れたこと、他の参加者と一日で友達になったこと、本学への志願意欲が高まったことなどが挙げられました。

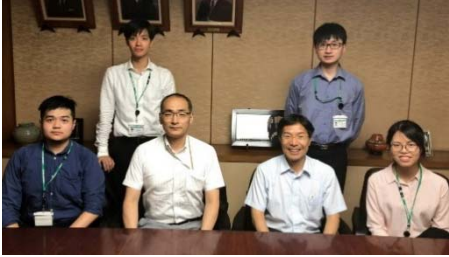
富士吉田オープンキャンパスは11月にも開催されます。



台北医科大学の学生が来学しました

口腔微生物学講座 桑田 啓貴

歯学部国際交流担当の桑田です。7月23日から5日間の日程で、台北医科大学歯学部の学生の訪問がありました。



昭和大学ではグローバルに活躍する医療人の育成を見据え、海外交流を積極的に推進しています。昭和大学の姉妹校協定大学の中でも台北医科大学は最も近年に締結が行われ、現在特に活発な交流が進行中です。歯学部間交流で昭和大学の学生が海外選択実習として台北医科大を訪れています(平成30年度は実績2名)。台北医科大学は台湾台北市にある医学部、歯学部、薬学部、看護学部を有する医系私立大学です。日本と同様、台湾でも人口減少と高齢化が進んでおり、今回は特に台北医科大学側から、高齢社会における昭和大学の対応を見学したいとの要望があり、歯科病院の高齢者歯科や補綴科、口腔リハ科などを中心に見学してもらいました。毎年、昭和大学歯学部には海外から4-5校程度の来訪がありますが、近年の訪日外国人の増加とも相まって、今後ますます海外大学から歯科病院への見学希望は増加すると見込まれますので、各診療科の先生には、どうぞより一層のご協力をお願いいたします。

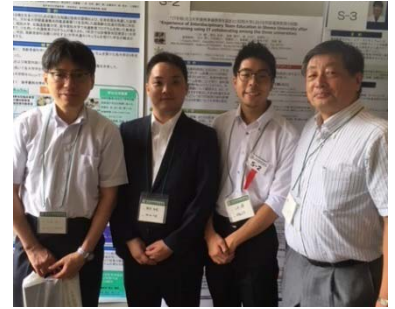
昭和大学の姉妹校協定大学の中でも台北医科大学は最も近年に締結が行われ、現在特に活発な交流が進行中です。歯学部間交流で昭和大学の学生が海外選択実習として台北医科大を訪れています(平成30年度は実績2名)。台北医科大学は台湾台北市にある医学部、歯学部、薬学部、看護学部を有する医系私立大学です。日本と同様、台湾でも人口減少と高齢化が進んでおり、今回は特に台北医科大学側から、高齢社会における昭和大学の対応を見学したいとの要望があり、歯科病院の高齢者歯科や補綴科、口腔リハ科などを中心に見学してもらいました。毎年、昭和大学歯学部には海外から4-5校程度の来訪がありますが、近年の訪日外国人の増加とも相まって、今後ますます海外大学から歯科病院への見学希望は増加すると見込まれますので、各診療科の先生には、どうぞより一層のご協力をお願いいたします。

第37回日本歯科医学教育学会が開催されました

歯科教育学部門 片岡 竜太

7月26日から28日にわたり、奥羽大学キャンパスで第37回日本歯科医学教育学会が開催されました。大会テーマは「東日本大震災から7年」に関連するシンポジウムやランチョンセミナーもあり、改めて災害医療教育の大切さを考えさせられました。特別講演は日本記録保持者を日本一多く輩出した福島大学陸上競技部監督である川本和久教授の「勝利への伴走者」で、具体的な目標設定の重要性をわかりやすく説明していただきました。美島教授は教育能力開発ワークショップ(通称富士研)に5年前に参加され、それを現在の教育に教育委員長としてどのように活かしているかをシンポジストとして講演されました。片岡教授は学会の多職種連携教育委員会企画として、ポスターシンポジウム「多職種連携教育の導入・充実を目指して」の座長を務めました。また初年次から5年次にわたる地域連携歯科医療実習Ⅰ、Ⅱ、Ⅲについて、授業責任者丸岡教授の指導のもと3演題が発表されました。本学からの発表はシンポジウム2題、ポスター発表6題、学生セッション1題でした。

学生セッションでは三木 優君と野田和孝君が3大学のIT連携教育で身につけた知識を活用していかに関し、学部連携教育に取り組んだかを発表し、しっかりと質問に答えていました。



27日の夜には3大学(北海道医療大学、岩手医科大学、昭和大学)交流の懇親会を3大学の学生と教員約30名を交えて行い、さらなる邁進を誓い合いました。

「半月板再生用材料および半月板再生用材料の作成方法」の特許を取得しました

口腔生化学講座 須澤 徹夫

学校法人昭和大学は、この度「半月板再生用材料及び半月板再生用材料の作製方法」の特許を取得し、発明者の医学部整形外科学講座稲垣克記教授、歯学部口腔外科学講座糸瀬昌克助教、代田達夫教授、島根俊和教授、口腔生化学講座上條竜太郎教授と私が、8月2日(木)小出良平学長から表彰されました。この特許は、糸瀬助教が口腔生化学講座でおこなった大学院博士課程の研究成果でありまして、多くの先生方のご協力により取得できたものと、心より感謝申し上げます。

半月板損傷は慢性化すると、変形性膝関節症へと移行することから早期治療が必要ですが、半月板内側に血管が存在しないため修復は困難です。半月板損傷に対する再生医療を目指し、脂肪組織由来再生細胞と、担体を組み合わせた再生材料の開発を検討しました。その結果、ゲルに懸濁した脂肪組織由来再生細胞を、アテロコラーゲンスポンジへ混入した移植材料を部分欠損させたラット膝半月板へ移植すると、既存の軟骨に類似した半月板組織の修復・再生を促進することを発見しました。本法はスポーツ外傷や、加齢による変形性関節症などの半月板損傷への新たな治療法に大きく貢献することが期待されます。

行事予定

広報委員長 中村 雅典

8月11日	歯学部オープンキャンパス
9月15日	歯学部薬学部入試説明会
9月27日	大学院秋季修了式
9月29日	富士吉田父兄会

編集後記

歯科放射線医学部門 松田 幸子

今回も力の入った原稿が届きました。ご寄稿いただいた皆様、本当にありがとうございます。